

事業名	視覚障害者援護費			調査番号	30
細事業名	視覚障害者福祉月間推進費	財務コード	080703		
担当部課室	福祉保健 部 障害福祉 課 地域生活支援 担当 (内線)	3220			

I 事業の概要

実施期間	始期 S40 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(委託)		
目的	だれ(何)を対象に 視覚障害者	その対象をどのような状態にして 福祉環境を広げ、より生きがいのある社会をつくる。	結果、何に結びつけるのか 共生社会の実現
内容	毎年11月を「視覚障害者福祉月間」とし、該当期間に下記事業を実施する。(委託先:(福)山梨ライトハウス) ①白い杖愛護作文等表彰式・・・視覚障害者と健常者の相互理解を深めることを目的に、白い杖愛護作文(晴眼者)を小学校低学年～高等学校まで、生活体験作文(視覚障害者)を児童～一般までにて募集し、各部について優秀作品の表彰を行う。 ②顕著な功績をあげた点訳録音奉仕員を顕彰(知事表彰)する。 ③視覚障害者の自立支援を目的に、県外講師を招聘し、当事者だけでなく幅広い県民に向けた講演会を実施する。		

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31(R1)年度	R2年度	
活動指標	白い杖福祉の集い参加者数	目標	150	150	150	150	150	150	
		実績(見込)	164	144	146	130	145	150	
		達成率	109.3%	96.0%	97.3%	86.7%	96.7%	100.0%	
		達成区分	b	b	b	b	b	b	
成果指標	愛護作文、生活体験作文応募点数	目標	400	400	400	400	400	400	400
		実績(見込)	364	401	357	470	302	350	
		達成率	91.0%	100.3%	89.3%	117.5%	75.5%	87.5%	
		達成区分	b	b	b	b	c	b	
決算(予算) 単位:千円		208	208	208	154	104	105	94	

III 事業の評価(平成30年度の業績評価)

活動指標	b	評価	予算額は削減傾向であるが、予算に応じた経費においてこれまで実施してきた内容の継続ができた。
成果指標	b		応募点数は毎年十分数を確保しており、作文募集や街頭啓発活動を通じ、視覚障害者と健常者の相互理解を深め、共生社会の実現に寄与しており、意図した成果は十分に上げている。

- ・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。
- ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

IV 見直しの必要性(令和2年度に向けた改善等の考え方)

関係与の必要性	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い <input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる <input type="checkbox"/> 必要性が低い
	説明	<input type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input checked="" type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input type="checkbox"/> その他 ()
有効性(成果向上)	判定	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上が可能 <input type="checkbox"/> 成果向上はあまり望めない
	説明	福祉推進月間事業の継続により、県民への周知が進み、その結果として視覚障害者の生活環境改善、共生社会の実現につながる。
見直しの余地	判定	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある <input type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がない
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input type="checkbox"/> その他 ()
その他	説明	実施体制や進め方について、これ以上の効率化や予算削減は難しいため、これまでと同様の進め方で、今後も事業を行っていきたい。
見直しの必要性	無	実施体制や進め方について、これ以上の効率化や予算削減は難しいため、これまでと同様の進め方で、今後も事業を行っていきたい。

V 見直しの方向(令和2年度当初予算等での対応状況)

現行どおり	説明	
-------	----	--

- ・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、IV見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。